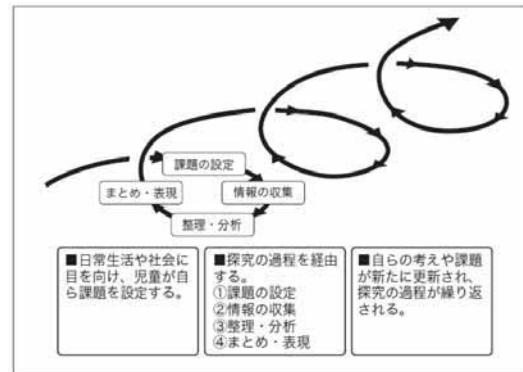


第2章 今、求められる力を高めるための学習指導

第1節 学習指導の基本的な考え方

総合的な学習の時間の改訂の趣旨を実現するためには、問題解決的な活動が発展的に繰り返される探究的な学習とすること、他者と協同して課題を解決する協同的な学習とすることが重要である。加えて体験活動を重視するとともに、思考力・判断力・表現力等をはぐくむ言語活動の充実を図ることが欠かせない。さらには、各教科等との関連を意識した学習活動を展開することなどを踏まえ、学習指導を行うことが大切である。

図 探究的な学習における児童の学習の姿



1. 探究的な学習

探究的な学習とは、図のような問題解決的な活動が発展的に繰り返されていく一連の学習活動である。

- 【課題の設定】 体験活動などを通して、課題を設定し課題意識をもつ
- 【情報の収集】 必要な情報を取り出したり収集したりする
- 【整理・分析】 収集した情報を、整理したり分析したりして思考する
- 【まとめ・表現】 気付きや発見、自分の考えなどをまとめ、判断し、表現する

こうした探究の過程は、およその流れのイメージであり、いつも順序よく繰り返されるわけではなく、学習活動のねらいや特性などにより順序が前後する場合がある。

2. 協同的な学習

総合的な学習の時間においては、特に、他者と協同して課題を解決しようとする学習活動を重視する。それは、多様な考え方をもつ他者と適切にかかわり合ったり、社会に参画したり貢献したりする資質や能力及び態度の育成につながるからである。具体的には、次のような場面と児童の姿が想定できる。

- 【多様な情報を活用して協同的に学ぶ】
- 【異なる視点から考え協同的に学ぶ】
- 【力を合わせたり交流したりして協同的に学ぶ】

3. 体験活動の重視

総合的な学習の時間では、体験活動を適切に位置付けた横断的・総合的な学習や探究的な学習を行う必要がある。例えば、自然にかかわる体験活動、ボランティア活動など社会とかわる体験活動、ものづくりや生産、文化や芸術にかかわる体験活動などを行うことが考えられる。

4．言語活動の充実

思考力・判断力・表現力等の育成を図る上で、体験したことや収集した情報を、言語により分析したりまとめたりすることを、問題の解決や探究活動の過程に適切に位置付けることが大切である。

言語活動を実施するに当たっては、例えば、国語科の言語活動例をはじめ、各教科等で行われている言語活動との関連を図ることが大切である。

体験から感じ取ったことを表現する

(例)・日常生活や体験的な学習活動の中で感じ取ったことを言葉や歌、絵、身体などを用いて表現する

事実を正確に理解し伝達する

(例)・身近な動植物の観察や地域の公共施設等の見学の結果を記述・報告する

概念・法則・意図などを解釈し、説明したり活用したりする

(例)・需要、供給などの概念で価格の変動をとらえて生産活動や消費活動に生かす
・衣食住や健康・安全に関する知識を活用して自分の生活を管理する

情報を分析・評価し、論述する

(例)・学習や生活上の課題について、事柄を比較する、分類する、関連付けるなど考えるための技法を活用し、課題を整理する
・文章や資料を読んだ上で、自分の知識や経験に照らし合わせて、自分なりの考えをまとめて、A4・1枚(1000字程度)といった所与の条件の中で表現する
・自然事象や社会的事象に関する様々な情報や意見をグラフや図表などから読み取り、これらを用いて分かりやすく表現したりする
・自国や他国の歴史・文化・社会などについて調べ、分析したことを論述する

課題について、構想を立て実践し、評価・改善する

(例)・理科の調査研究において、仮説を立てて、観察・実験を行い、その結果を整理し、考察し、まとめ、表現したり改善したりする
・芸術表現やものづくり等において、構想を練り、創作活動を行い、その結果を評価し、工夫・改善する

互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる

(例)・予想や仮説の検証方法を考察する場面で、予想や仮説と検証方法を討論しながら考えを深め合う
・将来の予測に関する問題などにおいて、問答やディベートの形式を用いて議論を深め、より高次の解決策に至る経験をさせる



出典：中央教育審議会答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について 5.(4) 思考力・判断力・表現力等の育成」(H20.1.17)

5．各教科等との関連

各教科等で身に付けた知識や技能を総合的な学習の時間において活用することによって、身に付けた知識や技能は確かになり一層生きて働くようになる。一方、総合的な学習の時間での学習活動やその成果が、各教科等の学習活動への意欲を高めたり学習を促進したりする。総合的な学習の時間と各教科等との関連を意識した学習活動を工夫することが大切である。

第2節 探究的な学習における学習指導

ここでは、課題発見・解決能力、論理的思考力、コミュニケーション能力等の育成に資する探究的な学習過程を、「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」に整理し、各過程における学習活動の事例を以下のように紹介する。

学習過程	学習活動	ページ
課題の設定 体験活動などを通して、課題を設定し課題意識をもつ	事例 体験活動を対比して課題を設定する	20
	事例 資料を比較して課題を設定する	21
	事例 グラフの推移を予測して課題を設定する	21
	事例 対象へのあこがれから課題を設定する	22
	事例 KJ法的な手法で課題を設定する	22
	事例 問題を序列化して課題を設定する	23
	事例 ウェビングでイメージを広げて課題を設定する	23
情報の収集 必要な情報を取り出し たり収集したりする	事例 アンケート調査で情報を収集する	24
	事例 フリップボードで情報を収集する	25
	事例 インタビュー前にチェックリストで確認して情報を収集する	25
	事例 図書室や図書館で情報を収集する	26
	事例 インターネットで情報を収集する	26
	事例 ファクシミリで情報を収集する	27
	事例 手紙で情報を収集する	27
	事例 電話で情報を収集する	28
	事例 電子メールで情報を収集する	28
	事例 実験・観察を通して必要な情報を収集する	29
	事例 ファイルに情報を集積する	29
事例 集めた情報をコンピュータフォルダに蓄積する	30	
整理・分析 収集した情報を、整理 したり分析したりして 思考する	事例 カードで整理・分析する	31
	事例 グラフで整理・分析する	32
	事例 マップで整理・分析する	33
	事例 図等で整理・分析する	34
	事例 座標軸の入ったワークシートで整理・分析する	35
	事例 メリット・デメリットの視点で整理・分析する	35
	事例 ベン図で整理・分析する	36
	事例 「ビフォー・アフター」の視点で整理・分析する	36
	事例 ホワイトボードで整理・分析する	37
事例 集めた情報をランキング付けして整理・分析する	37	
まとめ・表現 気付きや発見、自分の 考えなどをまとめ、判 断し、表現する	事例 振り返りカードでまとめ・表現する	38
	事例 保護者や地域住民などに報告する	39
	事例 自己評価カードを活用してまとめ・表現する	40
	事例 プレゼンテーションでまとめ・表現する	40
	事例 新聞でまとめ・表現する	41
	事例 レポートでまとめ・表現する	42
	事例 パンフレットでまとめ・表現する	43
	事例 ポスターでまとめ・表現する	43
	事例 パネルディスカッションでまとめ・表現する	44
事例 シンポジウムでまとめ・表現する	44	

コラム 言語活動の充実をめざすために...

1. 課題の設定

総合的な学習の時間では、児童が自ら課題意識をもち、その意識を連続発展させることが欠かせない。しかし、児童が自ら課題をもつためには、教師はただ待つのではなく、意図的な働きかけを行い、学習対象とのかかわり方や出合わせ方などを工夫することが大切である。

課題の設定においては、次の点に配慮することが大切である。

人、社会、自然に直接かかわる体験活動を重視すること
児童の発達や興味・関心を適切に把握すること
これまでの児童の考えとの「ずれ」や「隔たり」、理想と現実の対比などを大切にすること
各教科等で身に付けた知識・技能を積極的に活用すること

< 具体的事例 >

事例 体験活動を対比して課題を設定する

「上流と下流の探検」「A町とB町を歩く」など、比べて考えるような体験活動を位置付けることで、「どこがどう違うのか」「どうして違うのか」などの問題に気付き、課題へと高めていくことが期待できます。

【実践例 河川の探検】



上流は、水がきれい。
人も少ない。植物や魚
も多い。



下流は、ゴミが
多い。水も濁っ
ている。同じ川
なのになぜこ
んなに違うの
か。

【ポイント】

予想を立てる

- ・体験活動前に予想を書かせておくことで現実の姿との「ずれ」に気付きやすくする。体験活動の際の視点にもなる。

ノートやカードの利用

- ・気付きや発見、疑問に思ったことをその場ですぐに記録できるノートやカードを用意する。

ICTの活用

- ・必要に応じてカメラやビデオカメラを準備し実際の姿を撮影する。

教科等関連

- ・河川の探検の場合は、理科で身に付けた生物に関する知識や実験の手法との関連。

事例 資料を比較して課題を設定する

資料を提示するときにも、二つの資料を提示し比較することで児童から疑問が生まれやすくなります。児童は資料の違いからその原因を類推するなどして課題を明らかにしていきます。

【実践例 対比する二つの写真資料の提示】

例	A	B
(例1)	河川の上流	河川の下流
(例2)	普通の公園	バリアフリーの公園
(例3)	1丁目の自転車置き場	2丁目の放置自転車



【ポイント】

対比する資料の準備

- ・対比する資料は、視覚的にとらえやすい写真や映像資料を活用する。提示する資料は、書籍や新聞、インターネットなどから選ぶことも考えられるが、実際の地域の様子を記録し、提示することが大切である。

提示の工夫

- ・プロジェクターなどデジタル機器を活用すれば、資料を大きく提示でき、細部にわたって確認できる。そこでは、他者と協同的に話し合いを進めることができ、問題点の共有化にもつながる。

教科等関連

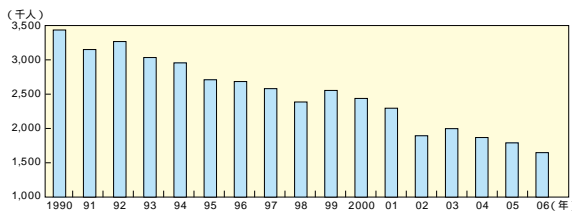
- ・社会科における、社会的事象の意味を考える力との関連。

事例 グラフの推移を予測して課題を設定する

グラフなどの統計資料の推移に着目することで、児童は調査対象の今後を予測したり、問題点を見出したりすることができます。児童は、統計資料の読み取りを根拠に課題を明らかにします。

【実践例 棒グラフの提示】

例 A市の観光客の推移



- 1 A市の観光客の推移をグラフから読み取る。
「グラフからいえることは何か」
「全体的にどのように変化しているか」
「変化はどこが大きくてどこか小さいか」
- 2 各自で課題をもつ
「A市の観光客が減っている理由は何か調査する」
「A市の観光客を増やすにはどうしたらよいか考え実行する」

【ポイント】

統計資料の準備

- ・児童の予想と実際のデータとの間に「ずれ」や「隔たり」が生じるような統計資料を用意する。

ワークシートの準備

- ・グラフから分かることや疑問点、今後の対策について自分の考えを書く。

教科等関連

- 表題を読む
- 単位を読み取る
- 数量を読み取る
- 変化の特徴を読み取る など
- 算数科におけるグラフの学習との関連。

事例 対象へのあこがれから課題を設定する

地域の伝統芸能やそれに携わる人との出会いは、児童に「自分も深くかかわりたい」「その人に近づきたい」という対象へのあこがれを抱かせます。対象の良さや価値を実感することで課題意識を高めます。

【実践例 伝統芸能の体験活動】

- 1 地域の伝統芸能を知る。
- 2 体験する。
- 3 携わる人の思いや願いを聞く。
- 4 よさや価値を実感し課題を見いだす。



【ポイント】

対象を選定するときの配慮事項

・探究的な調査が可能な対象かどうか吟味する。例えば、次のようなものが考えられる。

- 「地域が守り続けている伝統」
- 「地域の文化的財産」
- 「地域の社会貢献活動」
- 「地域を支える産業」
- 「伝統や文化を支える人々」 など

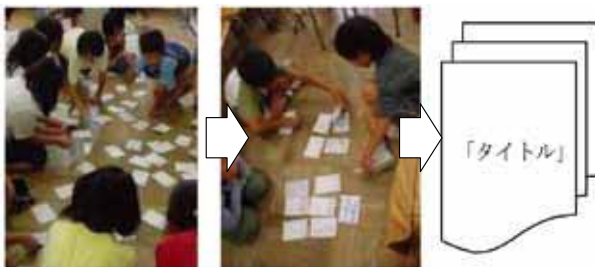
後継者がいないのは残念。地域の一員として伝統芸能をどうしたら守れるか考えよう。

事例 KJ法的な手法で課題を設定する

カードを活用したKJ法的な手法を用いることで、体験活動などを通して生まれた気付きや疑問を、類型化して課題を見いだすことができます。

【実践例 カードを基にした話し合いから課題づくり】

- 1 体験活動後に調べたこと、疑問に感じたことを付せん(カード)に書く。
- 2 付せん(カード)を類型化する。
- 3 類型化した付せん(カード)にタイトルを付れたり、キーワードを付れたりする。
- 4 タイトルやキーワードをもとに、話し合いを通して課題を明らかにしていく。



【ポイント】

付せんやカードの使い方

- ・付せん(カード)一枚に対して一つの気付きや疑問を書くようにする。
- ・付せんの向きをそろえ、仲間分けをしやすいようにする。

個別の疑問を集団の課題へ

- ・個別の疑問を集団の疑問にしながらグループや学級の課題として高めていく。

教科等関連

- ・国語科における、自分の意見と比べるなどして考えをまとめることなどとの関連。

事例 問題を序列化して課題を設定する

体験を通して明らかになった問題を序列化して整理することで、問題が焦点化され、追究したい課題を見いだすことができます。

【実践例 序列化を取り入れた課題の設定】

- 1 カードやフリップに問題（課題の候補）を取り出す。
- 2 序列化するための視点を決める。
- 3 視点に沿って序列化する。

ワークシートの工夫



板書の工夫

**【ポイント】**

課題の候補の取り出し

- ・キーワード化して取り出す。

序列化するための視点の例

- ・実現可能かどうか
- ・社会的な価値があるか
- ・テーマとの整合性はとれているかなど

話し合いを可視化して整理

- ・序列化する際には、話し合いの様子が可視化できるようにカードや板書などを工夫する。

教科等関連

- ・国語科における、収集した知識や情報を関係付けることなどの関連。

事例 ウェビングでイメージを広げて課題を設定する

ウェビングを活用しイメージを広げることで、児童はテーマを多面的にとらえたり、細分化して具体的にとらえたりしながら課題を見出していくことができます。

【実践例 テーマからウェビング】

- 1 中心テーマを決める。
- 2 ウェビングで自分の中のイメージを広げる。
- 3 完成したウェビング図を分析する。
(例) ・同じ内容を線で囲む
・関連のあるキーワードを線でつなぐ
・最も重要だと思うところに印を付ける など
- 4 友達の考えと比較しながらグループや学級の課題を明らかにしていく。

**【ポイント】**

中心テーマの設定例

- ・各校で定める学年テーマ
 - ・地域の特色など単元の題材となる事柄
 - ・課題づくりのきっかけとなる体験 など
- ウェビング図の分析

- ・明らかになった問題から課題を設定する
- ・細分化した問題から課題を見いだす など

ウェビング図を基にした話し合い

- ・他者の考えと比較する中で、問題の共有化がなされ、課題意識の高まりが期待される。

教科等関連

- ・社会科等における、比較・関連付けながら再構成する力との関連。

2. 情報の収集

課題意識や設定した課題を基に、児童は、観察、実験、見学、調査、探索、追体験などを行う。探究活動の過程においては、児童が自覚的に情報を収集する学習活動が展開されることが望ましい。

そこで、情報の収集においては、次の点に配慮することが大切である。

体験を通じた感覚的な情報の収集を大切にすること
課題解決のために目的をもって情報収集を行うこと
その後の探究活動を深めるために、収集した情報を適切な方法で蓄積すること
より多くの情報、より確かな情報の収集を行うために、各教科で身に付けた知識、技能を発揮すること

< 具体的事例 >

事例 アンケート調査で情報を収集する

アンケートは、多くの人の意見を集めて、その傾向を知りたいときに行います。聞きたいことを端的に表し、答えやすい簡単な質問を用意することで、多くの人のデータ収集が可能になります。また、質問の仕方や質問する相手によって、結果が異なってくるのでアンケートをとる前に、計画を立てることも大切です。

【実践例 アンケート調査用紙の作成】

市に訪れた方へのアンケート
私たちは今、「市の魅力」についての調査をしています…。

市には、観光でお越しですか？
はい いいえ
何回目の訪問ですか？
初めて ()回
市の魅力は何ですか？
自然、温泉、食べ物、文化、
についてなぜそう思うのですか。

記述欄

ありがとうございました。
市立 小学校6年1組



【ポイント】

調査用紙作成上の留意点

- ・調査の目的や調査の対象を誰にするのかを明確にする。
- ・短く、分かりやすい質問文にする。
- ・短時間で回答できるよう質問項目を多くしない。
- ・単純な質問から意見を問う質問へ移っていくようにする。

など

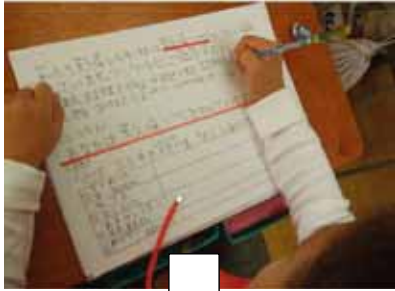
教科等関連

- ・国語科における、意図をとらえながら聞くこととの関連。

事例 フリップボードで情報を収集する

フリップボードを提示してインタビューする方法は、質問内容が伝わりやすいだけでなく、言葉と併用できるため、児童にとっての安心感にもつながります。また、短時間で回答が得られるので、相手に迷惑をかけずに済みます。

【実践例 フリップボードを提示してインタビュー】



・地域には、外国の人が多いため、英語と韓国語の説明も入れておこう。

・集計表も入れておこう。



江戸時代に私たちの地域では、「大久保つじの栽培」が盛んでした。知っていましたか？

【ポイント】

フリップボードの提示

- ・聞きたいことを端的に表し、答えやすい質問を用意する。

フリップボードの工夫

- ・集計表をフリップボードと一体化しておくなど、集計の方法についても確認しておく。

教科等関連

- ・国語科における、必要な事柄について調べ、要点をメモすることなどの関連。

事例 インタビュー前にチェックリストで確認して情報を収集する

インタビューのポイントをおさえたり、インタビュー活動の準備を計画的に行ったりすることで、専門的な立場の人の知識や経験、努力や工夫など、必要な情報を相手から直接得ることができます。

【実践例 インタビュー前のチェックリスト】

チェック項目	チェック欄
質問する目的が説明できる	<input type="checkbox"/>
質問する内容が整理してある	<input type="checkbox"/>
質問者、記録者などの役割を決めてある	<input type="checkbox"/>
記録用紙、カメラ等の取材道具の準備ができている	<input type="checkbox"/>
訪問先に予約をとってある	<input type="checkbox"/>
訪問する相手の名前が言える	<input type="checkbox"/>
訪問する相手に質問する内容を伝えてある	<input type="checkbox"/>
訪問先の行き方や費用を確認してある	<input type="checkbox"/>

インタビューの手順

インタビューへのお礼を言う 自己紹介をする インタビューの目的を説明する インタビューを始める インタビュー後のお礼を言う

【ポイント】

インタビューの目的

- ・何を知るためにインタビューするのか児童自ら説明できるようにしておく。

内容の再検討

- ・訪問前にインタビューメモを作成し、内容を吟味しておく。

事前の調整

- ・児童が連絡する前に、訪問先に趣旨を伝え、事前に連絡調整を行うようにする。

教科等関連

- ・国語科における、必要な事柄について調べ、要点をメモすることなどの関連。

事例 ファクシミリで情報を収集する

ファクシミリを使用すると、多くの質問項目や図表を添えた質問にも意見をもらうことができます。また、手紙よりも時間をかけずに必要な情報収集ができます。

【実践例 FAX用紙の書き方】

- 1 日付
- 2 相手の名前
- 3 自分の学校、学年、名前
- 4 学校の住所、FAX 番号
- 5 タイトル
- 6 あいさつ、FAX の目的
- 7 回答の期日
(質問紙を添付)

年月日
御中 (枚中 枚) 小学校 年 名前 学校の住所 電話番号・ファクシミリ番号
区のバリアフリーの質問 についてご連絡します。
さきほどお電話した です。電話でもお話しましたが、 区のバリアフリーについて調べています。2枚目に質問をかきましたので教えてください。
お忙しいと思いますが、月日までにご回答ください。よろしくお願いたします。

【ポイント】

事前の準備や相手への配慮

- ・送る直前に電話してファクシミリを送ることを伝える。
- ・送り間違いのないようにファクシミリ番号を確かめる。
- ・濃い鉛筆やボールペンで書くようにする。
- ・図表などを添付し、相手に質問の意図が分かりやすく伝わるようにする。

など

事例 手紙で情報を収集する

手紙を活用した情報収集を行うことで、児童は直接会うことが難しい専門機関や専門的な立場の人から必要な情報を得ることができます。手紙は、時間はかかりますが、ファクシミリや電話に比べ丁寧な情報収集の手段です。

【実践例 手紙の書き方】

- 1 相手の名前
- 2 あいさつ
- 3 自己紹介
- 4 手紙を書いた理由を伝える
どのようなテーマで学習しているのか
現時点で自分たちの分かっていること、考えなど
- 5 質問は分かりやすく箇条書きにし、具体的に書く
- 6 日付
- 7 自分の名前

様
はじめてお手紙さしあげます。私は 小学校5年生の です。今、学校で世界の料理について調べています。本で調べたときに鮮やかに盛り付けられたタイ料理の写真に驚きました。もっとよく知りたいので、次のことについて教えてください。
1. 色とりどりの野菜を使っているようですが、タイでよく食べられている野菜は何ですか。 2. タイ料理で代表的な料理は何ですか。
どうぞよろしくお願いたします。
年月日

【ポイント】

手紙を送る際の留意点

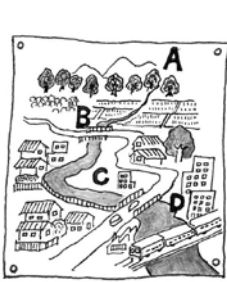
- ・字は読み手を意識し、丁寧に読みやすく書く。
- ・返事をお願いする場合は自分の宛て先を書いた返信用封筒やはがきを同封する。
- ・相手に対して失礼のないように表現には十分に配慮する。
- ・所在確認が可能であれば、事前に教師が電話等で確認して打合せのうえで送付するとよい。

事例 実験・観察を通して必要な情報を収集する

児童は、科学的な方法による実験・観察を通して、客観的なデータを手に入れ、自分の考えを確かにするとともに、自分の考えを説得力のある提案へと高めていきます。

【実践例 パックテストによる調査】

地域の河川の水質調査において水の汚れを示すCOD（化学的酸素要求量）の値をパックテストで測定する。科学的に測定することで、汚れの程度を客観的に知ることができる。



地点	COD値 (mg毎リットル)	気付いたこと
A	0,5 ~ 1,0	きれいな流れ
B	0,5 ~ 1,0	魚がたくさん
C	0,5 ~ 1,0	周辺にゴミが...
D	1,0 ~ 5,0	においがきつい

家庭排水が流れ込む地点

0,5 ~ 1,0 mg 毎リットルを示した水は問題ない。でも地点Dは、1,0 ~ 5,0 mg 毎リットルを示している水はかなり汚染されていることが分かった。



近くで流れ込む生活排水が原因だと思うわ。

【ポイント】

測定の目的

- ・何のために測定するのかを明らかにしておく。

測定方法の工夫

- ・自分の手で実際にできる測定方法を考える。

分析・考察のための収集

- ・現象を原因と結果の関係でみるため表などにまとめ、データに基づいて考察する。

データの信憑性を高める

- ・測定は、何度も行い平均値などを求めることも大切である。

教科等関連

- ・理科の水溶液の性質などとの関連。

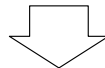
事例 ファイルに情報を集積する

活動の記録や収集した資料にインデックスやタイトルを付けて整理することで、情報が内容ごとに整理されるだけでなく、情報を再確認したいときや、自己の歩みを振り返りたいときなどに簡単に取り出すことができます。

【実践例 ポートフォリオの作成】



- 1 集めた情報を時系列でファイリングしていく。日付や通し番号を付けておくとよい。小さいサイズのものは台紙に貼り付けてファイリングすると散逸しにくい。



- 2 時系列でファイリングしていた情報を、分野ごとに整理するなどして再構成を行う。その際「タイトル」や「小見出し」などを付ける活動は内容を見直すことや振り返ることにもつながる。

【ポイント】

文章表現

- ・書く活動を重視し、様々な体験活動の記録を文章として蓄積していく。

時系列の並びから内容の並びへ

- ・集めた情報は、はじめは時系列に並んでいる。これを同じ内容でまとめることは、情報の整理や再構成をすることにつながる。

事例 集めた情報をコンピュータフォルダに蓄積する

調査したことをコンピュータのフォルダに蓄積していくことで、体験活動等で集めた多様で膨大な情報を整理して保存することができます。蓄積した情報の取り出しが容易になるだけでなく、コンピュータ内のソフトを活用してグラフや表に加工することも容易になります。

【実践例 フォルダに整理】

- 1 コンピュータに調査内容に応じたフォルダをつくる。
フォルダ1「川の水質調査のデータ」（上流、中流、下流）
フォルダ2「インタビュー結果」（専門家、地域、保護者）
フォルダ3「インターネット情報」（川に関すること、生き物に関すること、行政の取組、他地域の情報）
フォルダ4「アンケートの結果」（項目別、調査日別、地域別、年代別、その他記述の内容別）
フォルダ5「現地取材の画像・映像」（調査日別、種別、エリア別、対象別）
- 2 集めた情報をフォルダに整理して保存する。



- 3 作成したフォルダは共有し合えるようにする。

【ポイント】

ICTの活用

- ・ICTを積極的に活用できるように指導する。
（ワープロソフト、プレゼンテーションソフト、表計算ソフトによるグラフ作成、画像の編集など）

情報の共有化

- ・フォルダを作成し、資料を内容ごとに整理し、データを共有できるようにする。

3. 整理・分析

多様な方法で収集した情報を、整理したり分析したりして、思考する活動へと高めていくことが望まれる。収集した情報を種類ごとに分類したり、細分化して因果関係を導き出したり、批判的・複眼的な視点で分析したりする。それが思考することであり、そうした学習活動を位置付けることが重要である。

整理・分析においては、次の点に配慮することが大切である。

どのような情報が、どの程度収集されているかを把握すること
 どのような方法で情報の整理・分析を行うのかを決定すること
 整理・分析する活動として、「比較して考える」「分類して考える」「序列化して考える」「関連付けして考える」などの思考との関係を意識すること
 国語科や社会科、算数科、家庭科などの教科等での学習との関連を図り、教科等と総合的な学習の時間が互いに支え合うように配慮すること

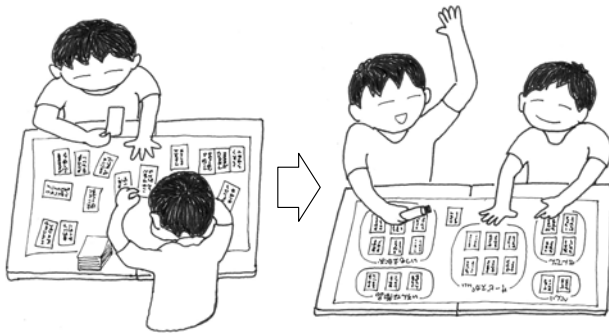
< 具体的事例 >

事例 カードで整理・分析する

体験活動等で集めた情報をカードに取り出し、グループや学級でまとめごとにより分類していくことで、グループや学級で集めた多様な膨大な情報を焦点化して整理することができます。情報を関連付けてとらえたり、質の高い情報とそうでない情報とを振り分けたりするよさがあります。

【実践例 体験活動等で得た情報の分類】

- 1 何のためにカード整理をするのかを明らかにする。
「 町には、どのような特徴と問題点があるか? 」
- 2 調査して分かったことや体験して感じたことをカードに書き出す。(1枚のカードに1つ書くように指示する)
- 3 同じ考えのカードの上に自分のカードを重ねながら仲間分けする。
- 4 まとめごとにタイトルを付ける。



- 5 整理したまとめにより、新たな課題を見出したり、課題別にグループを構成したりする。

【ポイント】

情報のカードへの書き出し

- ・調べたことをカードに書き出す。その際、一枚のカードに一つの事柄を記述することを伝える。また、カードには自分の名前を書くなどして、責任をもってカードを作成することも大切である。

協同的な話し合いのよさ

- ・カードの分類は、協同的に行うことが望ましい。自分と友達の考えと比べながら整理することで、多様な見方や考え方を育成することにつながる。

教科等関連

- ・国語科における、収集した知識や情報を関係付けることとの関連。

事例 グラフで整理・分析する

調査したことをグラフなどの統計的な手法を使って目に見える形で整理することで、事象の特徴を客観的にとらえたり、事実や関係を把握したりすることに役立ちます。また、情報を客観的に整理することで、自分の考えや主張の明確な根拠となります。

【実践例 調べた結果のグラフ化】

「Aスーパーのエコバックの利用状況を調べよう」



「Aスーパーのマイバッグ持参率を調べてみました。」

「持っていく人が62%でした。」

「持っていかない人の理由は、うっかり忘れが多いことが分かりました。」

<その他にグラフに表すと効果的な活動例>

棒グラフ

各公園に落ちていたアルミ缶の数

商店街の各店の来客数

「山」の各ポイントでつかまえた虫の数

「川」のポイントごとの水質調査の結果 など



折れ線グラフ

学校の消費電力量

「市」の高齢者の人数の変化

「家」の米の消費量 など

円グラフ・帯グラフ

「市」の高齢者の占める割合

「家」の光熱費の占める割合

ノンステップバスの占める割合 など

【ポイント】

調査結果のグラフ化

・実践的な場面で積極的に活用し、そのよさを実感できるようにする。

第3学年...棒グラフ

第4学年...折れ線グラフ

第5学年...円グラフ、帯グラフ

教科等関連

・算数科で身に付けたグラフ化の手順を活用する。

グラフを選ぶ

表題を付ける

単位を書く

目盛を書く

データを落とし込む

色や模様を付けて見やすくする

分析の視点

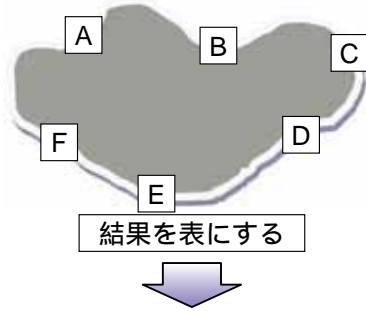
・「全体的にどのように変化しているか」「変化はどこが大きくどこが小さいか」「変化している理由は何か」「グラフからいえることは何か」「これからどうなっていくのか」などの視点をもちグラフを分析し考察する。

事例 マップで整理・分析する

エリアごとに調べた情報をマップに整理することで、他のエリアと比較したり、エリアの特徴と調査結果を関連付けて考えたりすることができます。

【実践例1 水質調査の結果の整理・分析】

池の透明度調査



A	B	C	D	E	F
35 cm	25 cm	40 cm	30 cm	60 cm	40 cm



なぜ、場所によって透明度がこんなにちがうのだろう？



B地点には、水を濁す原因があるはず。もう一度確かめに行こうよ。

【実践例2 アンケート調査の結果の整理・分析】

1 調査エリアを決め、アンケートをとる。



A通りの調査は1班、B町は2班...

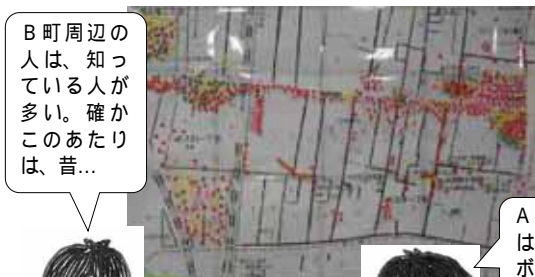
2 アンケートの結果を拡大マップに整理する



調査結果をマップにはるぞ！

よく知っている ... 緑シール
 知っている ... 黄シール
 ほとんど知らない... 桃シール
 知らない ... 赤シール

3 マップをみながら分析する。



B町周辺の人は、知っている人が多い。確かこのあたりは、昔...



A通り周辺の人は、地域のシンボルをほとんど知らない。

【ポイント】

調査ポイントの設定

・教師が事前調査をしておきたい。例えば川や池、海岸などポイントによって調査結果が違ってくることがある。そこから新たな「なぜ？」が生まれやすい。

マップへの整理

・マップに記入するとき、数値や言語情報をマップに記していく。図や絵などで記していくなど方法が考えられる。

マップを拡大して全体で整理

・マップを拡大しておくことで、個々に集めた情報を全員で整理することができる。視覚的にとらえやすく、協同的な話し合いの場が生まれやすい。

マップでまとめると効果的な例

- 「植物や昆虫の分布の様子」
- 「点字ブロックの敷かれている場所」
- 「違法放置自転車の状況」
- 「川の生物の分布」
- 「町の工場の様子」
- 「町のすてきな人」
- 「商店街の特徴調べ」など

教科等関連

・社会科における、地域の調査や資料を活用することとの関連。

事例 図等で整理・分析する

調べた情報を図やスケッチ、年表などでまとめると個々の情報を整理したり、丁寧に見つめたりすることができます。整理し見つめ直すことで客観化することができ、新たな発見が期待できます。

【実践例 しくみや構造を表す図等の活用】



スケッチ

情報の収集手段では、実験や観察もある。観察では、デジカメなどの活用だけではなく、細かにスケッチすることで特徴が見えてくることもある。



実験図

実験では、使用した器具などを図にしておくとう分かりやすくなる。実験の目的や結果、考察したことなども丁寧に記録させたい。



原因から結果までの過程

原因と結果などの因果関係をまとめるときには、一連の流れを図に整理しておくことで分かりやすくなる。年表などで時系列で変化の様子をまとめるのもよい方法である。

【ポイント】

思考の整理

- ・調査した事柄を整理するときに流れがある場合にはそれを時系列などの図に表すことにより思考の整理に役立つ。

スケッチのすすめ

- ・スケッチは上手、下手ではなく無自覚なものを自覚化させる働きがある。調査の際に小さなスケッチブックを持たせておくとよい。

実験の記録化

- ・実験では、図と言葉の両方でまとめる。仮説、実験内容・方法、実験結果、考察の記録の中で方法や結果を図に示すことで一層分かりやすく整理できる。その際、事実と考察を明確に区別しておくように指導する。

情報の整理

- ・調査した事柄を整理するときに、流れを意識して図に示すと情報の整理に役立つ。

教科等関連

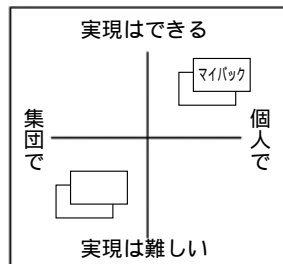
- ・理科での観察の技術を生かす。

事例 座標軸の入ったワークシートで整理・分析する

集めた情報を座標軸を使って整理することで、視点に沿った考えが促されるだけでなく、情報を可視化しながら整理できます。このような思考ツールによって、自己の考えを振り返ったり、他者の考えと比較したりすることも可能です。

【実践例 2つの視点で整理】

- 1 身の回りの環境問題を調べ、その改善策をカードに書き出す。
- 2 座標軸の視点を決める。
- 3 座標軸を用いたワークシートに付せん（カード）を貼って KJ 法的に整理する。



どこに位置付けるとよいかについて話し合いながら進めていく。

【ポイント】

思考ツールの活用

- ・どのような情報がどの程度集まっているのかを事前に把握しておく。
- ・どのように思考させたいかを考え、児童が考える視点などを決定する。視点をどのように設定するかで学習の方向性が変わるので十分留意する。

他教科等での思考ツールの活用

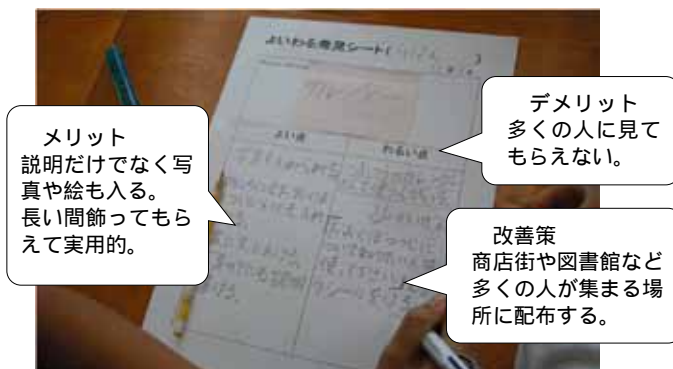
- ・思考ツールは、総合的な学習の時間に限らず、様々な教科でも活用できる。

事例 メリット・デメリットの視点で整理・分析する

児童が考えた課題解決のためのアイデアや方法、提案をすぐに実施するのではなく、メリットとデメリットの両面から吟味することで、より質の高いアイデアや方法へと高めていくことができます。児童にこのような思考の場を設定することでアイデアの根拠を明らかにしていきます。

【実践例「よいわるい発見シート」の活用例】

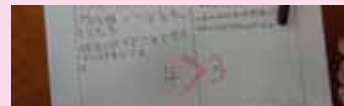
発信方法を「良い点」と「悪い点」に分けて考え、ワークシートに書く。それぞれについて検討しながら、表現方法の見直しをしていく。



【ポイント】

シートを活用した話し合い

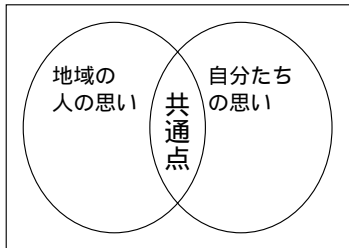
- ・アイデアについての問題点を指摘したりよさを発見したりするなどの思考の場があることによって、アイデアの質を高め、アイデアを共有していくことにつながる。また、高学年では、批判的な視点をもつことも大切である。メリットとデメリットのどちらが多いかでアイデアのよさを判断させることも考えられる。



事例 ベン図で整理・分析する

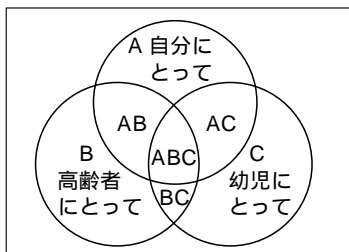
異なる立場からの情報を、ベン図を用いて整理することで、共通点や相違点を明らかにすることができます。整理する視点を設けて情報を振り分けることで、共通の要因を含む情報や課題解決の方法などを見いだすことができます。

【実践例1 共通点、相違点を明らかにするベン図】



- 「市の桜通りについて」
- 1 多様な情報を付せんやカードに取り出す。
 - 2 異なる立場を示したベン図を用意する。
 - 3 共通点や相違点を考えながらベン図に整理する。

【実践例2 視点を設けて共通の要因を含むものを見いだす】



- 「地域のバリア調べ」
- 1 調べたことを付せんやカードに取り出す。
 - 2 整理する視点を決める。
 - 3 視点の数に合ったベン図を用意する。
 - 4 視点に沿ってカードを整理する。

【ポイント】

異なる立場とベン図の活用

- ・「年齢」「国籍」「性別」「地域」「立場」などの異なる立場から情報を整理する。

よりよい提案に高めたいときの視点

- ・例えば「A実現可能か、B緊急を要するか、C持続可能か」などの視点を定めて整理する。

事例 「ビフォー・アフター」の視点で整理・分析する

集まった情報を整理・分析していくと、情報を収集する前後で児童の見方や考え方が変わることがあります。「ビフォー・アフター」で振り返ることで、児童が自らの変容を自覚してとらえることができるようになります。これは自己評価の力にもつながります。

【実践例 「ビフォー・アフター」による自己分析】

地域の伝統を広めるためにキャラクターをつくって広める活動
「振り返りの視点：地域への思い」

<ビフォー>

・早くつくりたい。かわいいデザインを考えたい。

【活動1】
地域の人の思いをインタビュー

<アフター>

・地域のMさんの努力や思いが伝わった。地域の伝統なのにあまり知られていないなんてショックだった。だから、地域の伝統が一目で分かるようなデザインを考えたい。

・何としても私たちとMさんの思いを地域の人に分かってもらいたい。心を込めて地域に伝えたい。

【活動2】
地域に提案発表

画家のTさんから思いが伝わるデザインだって言ってもらえた。それに、地域の人から「ありがとう」って言ってもらえて飛び上がるほど嬉しかった。期待されるって気持ちいいことだと思った。きっと多くの人に受け入れてもらえると思う。

活動前と後でどのように地域への思いが変わりましたか？



地域のことを考えるようになった。地域のが前より好きになった。



【ポイント】

活動の位置付け

- ・「どのような活動」の前と後に記録をするのか、振り返りの適時性が鍵となる。困難を乗り越え達成感を味わったとき、友達や外部からの評価を得られたときなど、児童の心の動きが見られた瞬間を逃さないようにする。

振り返りの視点の明確化

- ・振り返りの視点を明確にしておくことで、事前と事後の比較がしやすい。記録しながらまとめていき、自己の成長を確かめていく。

事例 ホワイトボードで整理・分析する

グループにホワイトボードを配布し、児童自らマーカーペンなどを使って話し合いを可視化しながら考えを確認していきます。相手の考えにメモを加えたり、内容ごとに仲間分けやラベリングをしたり、構造的にまとめたりすることもできます。話し合いの振り返りをする場合にも有効です。

【実践例 ホワイトボードに可視化しての話し合い】

- 大好き 商店街 -

T: 商店街の「すてき」をたくさん見つけましたね。
グループで話合って、ベスト5を選びましょう。



【ポイント】

ホワイトボードの活用

- ・情報を可視化して整理・分析することは、各教科の話し合いの場面においても有効である。ホワイトボードを活用し協同的な学びのよさを味わわせるようにする。ブレインストーミング、ウェビングなどをしながら話し合うことも考えられる。

教科等関連

- ・各教科等においても、グループでの話し合いを可視化することが考えられる。

事例 集めた情報をランキング付けして整理・分析する

体験活動等で集めた情報を、話し合いながらランキングして整理し、その結果を導く過程で多様な見方や考え方が生まれ、自分の考えの根拠を明らかにしていくことにつながります。

【実践例 地域の自慢ランキング】

活動展開例

- 1 地域の自慢についてインタビューした結果を付せんやカードに取り出す。
- 2 付せんやカードを操作しながら、各自でランキング付けをして整理する。
- 3 ランキングに整理したワークシートを基に、グループ内で相互に発表し合う。
- 4 グループの考えとしてまとめていく。

【ポイント】

ランキングで育つ力

- ・中学年の児童にも十分理解できるツールで、楽しみながら意志決定する力を育てる。根拠を明らかにして考え、表現する力を育てることにもつながる。

活動の際の配慮事項

- ・ランキングは、ベスト3～ベスト5程度が望ましい。
- ・なぜ、そうなったのか理由を引き出す発問をする。
- ・情報の量だけでなく、情報の質にも着目させる。など

4. まとめ・表現

情報の整理・分析を行った後、それを他者に伝えたり、自分自身の考えとしてまとめたりする学習活動を行うことにより、一人一人の児童の考えが明らかになったり、課題が一層鮮明になったり、新たな課題が生まれたりしてくる。このことが学習として質的に高まることであり、深まりのある探究活動を実現することとなる。

まとめ・表現においては、次の点に配慮することが大切である。

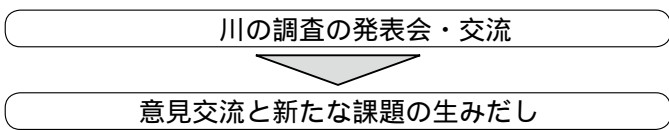
情報を再構成し、自分自身の考えや新たな課題を自覚すること
 相手意識や目的意識を明確にすること
 伝えるための具体的な方法を身に付け、内容を明らかにすること
 各教科等で身に付けた表現方法を積極的に活用すること

< 具体的事例 >

事例 振り返りカードでまとめ・表現する

児童の思考を深め、探究活動を連続・発展するためには、これまでの学習活動における情報を整理し、自分の考えを一層明らかにする振り返りカードを活用することが効果的です。

【実践例】 これまでの活動を見つめる振り返りカード



振り返りカード	
単元名「 川について考える」	5年
これまでの自分の学習活動を整理して書きましょう。	
川に探検に行ったとき、はや、ふな、スナヤツメなどのたくさんの生き物がいたのでおどろいた。ぼくは、川に住むいろいろな生き物についてもっと知りたいと思い「 川の生き物の種類と特徴」について調べることにした。	
調べた生き物は、絶滅危惧種のスナヤツメです。この魚は、	
友達の発表や話し合いから気付いたこと、思ったことを書きましょう。	
Cグループの発表を聞いて、川が前よりきれいになっていることが分かりました。それは、川の近くに住んでいるボランティア活動をしている人たちや町役場の人たちが川をきれい	
「もっと知りたいこと」、「これからやってみたいこと」、「やらなければならないこと」などを書きましょう。	
絶滅危惧種のスナヤツメは、このままのきたない川の中では生きていけません。なんとか、川をきれいにしなければなりません。Cグループの発表から川をきれいにするためにがんばっている人がいることが分かりました。ぼくたちもその人たちと力を合わせて川をきれいにしていきたいと思います。	
ぼくたちにできることは、毎月1回川のゴミを拾うことやゴミを捨てないようにポスターをつくることです。	

【ポイント】

これまでの学習活動の整理
 ・これまでの学習活動などを文章で表現して整理することにより、自分の気付きや考えを一層明らかにする。

新たな情報の整理
 ・友達と交流し、発表内容から気付いたことなど、新たな情報を整理し、自己の考えと比較したり関連させたりする。

視点の明確化
 ・自分の活動の振り返りや友達との交流を通して、「もっと知りたいこと」「やってみたいこと」は何かなど、明確な視点をもって、自分の考えを整理する。

教科等関連
 ・各教科等において



も、学習カードなどに言語化することで学習活動を振り返ることが考えられる。

事例 保護者や地域住民などに報告する

児童のまとめや発表に対して、保護者や地域住民などによる外部評価の場を設定することで、自らのよい点や改善点に気づき、自信を深めたり、次の探究活動への意欲を高めたりします。

【実践例 保護者や地域住民を招いた発表会】

1 発表会に参加する保護者や地域住民に対して発表後の感想を述べてもらうよう依頼する。



2 各グループの発表を行う。



保護者や地域住民の感想

「めあてをはっきりさせて、調べたりまとめたりしてきたことは素晴らしい。他の勉強にも生かしてほしい。」
 「去年の発表より、内容が整理されていたし、発表者が自分の考えをしっかりとっていたので分かりやすかった。」
 「来年の発表では、家の人や地域の人にやってほしいことなども提案してほしい。」



3 教師は保護者や地域住民の感想を整理し板書にまとめる。



【発表会後の児童の感想】

Aさん：今日は、 さんにほめてもらってうれしかった。次のたんけんでもめあてをきめて、たくさん調べて発表したい。
 Bさん：いっしょけんめい調べたり、発表の練習をしたりしてよかった。この次は自分の考えをきちんと発表できるようにがんばりたい。

【ポイント】

保護者等への事前の依頼

- ・ 児童の自信を深めること、児童に改善点や今後の方向性について示唆を与えることなどに関して、感想や意見を述べてもらうよう、事前に保護者等に対し依頼する。

教師による整理、価値付け

- ・ 保護者や地域住民の感想を教師が補足したり、板書したりしながら整理し、児童の活動を価値付ける。

保護者等のメッセージの活用

- ・ 感想を発表することができなかった保護者や地域住民には、メッセージカードなどを渡し、記述してもらうようお願いすることも考えられる。



教科等関連

- ・ 国語科における、図表やグラフを用いた表現との関連。

事例 自己評価カードを活用してまとめ・表現する

児童が自信を深め、探究活動に意欲的に取り組むために、まとめや表現の後の振り返りの場面において、児童が自分のよい点や成長などを実感し、自己の変容に気付く自己評価カード等を活用することが考えられます。

【実践例 自己の変容を振り返る自己評価カード】

...よくできた ...できた ...もう少し努力が必要

課題	時計台の魅力を調べ、観光客に伝えよう	
1	めあてをもちながら学習に取り組むことができた	
2	調べたいことをはっきりさせて調べることができた	
3	集めた情報を整理して時計台の魅力をはっきりさせた	
4	友達と協力して学習を進めることができた	
5	観光客に伝える方法をみんなで考えることができた	
6	観光客に時計台の魅力を伝えることができた	
振り返り	<p>【自分の言葉で～自分の変化、次の学習に向けて～】 はじめは、時計台にはあまり興味はなかったが、調べていくうちにたくさんのが分かってきて、最後には時計台が好きになってきた。総合の勉強の仕方分かってきたしおもしろくなってきた。だけど、調べてきたことをうまく整理できなかつたので次の学習では工夫したい。</p> <p>【先生から一言】 調べたいことが次々と浮かんでくる 君はすばらしい。「はてな？」をたくさんもつことで、調べることが楽し...</p>	

【ポイント】

単元全体を振り返る工夫

- ・ 探究的な学習の過程を振り返り、文章化することにより、自己の変容を実感できるようにする。その際、単元の導入と終末の変化を表現するようにする。

資料の効果的な活用

- ・ 単元全体の学習活動の足跡が分かる資料などを活用して、学習の過程において多くの知識や学び方を獲得したこと、単元の導入と終末における自己の変容などに気付くようにする。

事例 プレゼンテーションでまとめ・表現する

児童が情報を再構成し、自分自身の考えや新たな課題を明らかにしたり伝えたりするために、プレゼンテーションでまとめることが考えられます。その際、目的、対象などに応じて、内容、表現方法、情報量、構成などを工夫する必要があります。

【実践例 パソコンとプロジェクター投影によるプレゼンテーション】

<p>【主張点の明確化】 身近な問題である「ゴミ問題」は国際的な課題でもあり、すべての人たちが協力して解決していかなければならない。</p>
<p>【構成】 課題設定の理由 市役所の人の話、ゴミ処理場の見学、ゴミ調べによる、ゴミ問題、環境問題について追究することとした。 目的 北海道や日本、世界のゴミ問題の現状を調べ、具体的な解決策を明らかにして取り組む。 ポスターやWebページなど様々な方法で発信する。</p>

【ポイント】

主張点の明確化

- ・ 整理・分析した資料から自分の考えを明確にし、伝えたい内容や主張点を明らかにする。

構成の工夫

- ・ 課題設定の理由、追究方法、収集した情報、結果、主張など探究の過程や自分の考えを分かりやすく伝えることができるよう順序性や論理性を大切にする。

画像の工夫

- ・ 相手意識を大切にし、複雑にならないよう最も伝えたい言葉や画像を精選し、色使い、見出しなどを工夫する。

教科等関連

- ・ 各教科等でも学習活動の成果をまとめる方法として活用することが考えられる。

発表時間に応じて画面を精選する

ゴミ問題について



キーワードを強調したり、印象的な見出しを付けたりする

色はたくさん使わずに

文章は端的に表現する

事例 新聞でまとめ・表現する

児童が情報を再構成し、自分自身の考えを伝えるためには、新聞でまとめることが考えられます。その際、目的、対象などに応じて、内容、表現方法、情報量、構成などを工夫する必要があります。

【実践例 新聞によるまとめ】

優先順位		トップ記事		題字
私の考え	コラム	優先順位	優先順位	

表現上の工夫

- ・ 記事の量、見出しの大きさは、紙面の下部ほど少なく、小さくなる。
- ・ 見出しは、読み手を引き付けるため、比喩、体言止め、倒置法、語りかけなどを用いる。
- ・ 資料で調べた難しい言葉や読みにくい漢字は分かりやすく表す。

【ポイント】

主張点の明確化

- ・ 単元の課題を確認したり、これまでの活動を振り返ったりして、主張点を明確にする。

記事の優先順位の決定

- ・ 主張点が分かりやすく伝わるよう記事の優先順位や割り付け、見出し、分量等の見出しを工夫する。

自分の考えの明確化

- ・ 自分の意見を文章化することにより、自らの考えを一層明確にする。

教科等関連

- ・ 各教科等においても、新聞などに言語化することで学習活動を振り返り、再構成・再編集することが考えられる。

事例 レポートでまとめ・表現する

情報を再構成し、自分自身の考えをまとめる方法としてレポートが考えられます。その際、要素や内容を児童自ら取舍選択できるようにすることが大切です。

【実践例 レポートによるまとめ】

テーマ
心をつなぐ道 花園グリーンベルトの課題

1 動機
グリーンベルトに草花を植える人もいればゴミを捨てる人もいる。町の人たちはグリーンベルトについてどのように感じているのか疑問をもった。

2 目的
グリーンベルトに対する町の人たちの意識を明らかにし、住んでいる場所によって感じ方に違いがあるかどうかを調べる。

3 方法
アンケート調査（グリーンベルト沿いに住んでいる人 200メートルくらい離れた所に住んでいる人 他の地域から通勤している人）を行い、それぞれ集計し比較・分析する。

4 結果
グリーンベルトのよい点グリーンベルトの悪い点

表現上の工夫

事実や意見、引用を明確に区別して表現する。

- ・事実...調べて分かったこと、間違いのないこと
(例)「 の割合は全体の60%である」
- ・意見...思ったことや感じたこと、推測したこと
(例)「...と考えられる」「...だろう」
- ・引用...引用した文章は出典を明記する
(例) 『 』 書店・2009

図や表、写真、グラフなどを効果的に活用し、分かりやすく表記する。

【ポイント】

目的や読み手に応じた工夫

- ・「特定の人に提出する」「多くの人たちに発信する」「自分自身の記録とする」など目的や読み手に応じて形式、内容を工夫する。

探究的な学習の過程の明確化

- ・研究の動機、目的、方法、結果、考察などについてまとめ、探究的な学習の過程や結果が明らかになるよう工夫する。

レポートの主な要素と内容、
主な要素各項目の主な内容

主な要素	各項目の主な内容
テーマ	より具体的に表記
動機	テーマ設定の理由、きっかけ
方法	いつ、どこで、どのような方法で情報を収集、分析したか
結果	調査・分析により明らかになった客観的事実
考察	<ul style="list-style-type: none"> ・事実から読み取れること ・事実に対する意見・感想 ・今後の課題や残された疑問

事例 パンフレットでまとめ・表現する

情報を再構成し、自分自身の考えをまとめるには、パンフレットも一つの方法です。伝えたい内容に見出しを付けたり、レイアウトを工夫したりするなど、提案する相手を意識して表現方法を考えることが大切です。

【実践例 パンフレットによるまとめ】

伝えたい内容に「見出し」を付けてカードで整理する
・伝えたい内容を「見出し」を付けてカードに書き出す ・カードには1枚に1項目を書く
「見出し」を並べてパンフレットに載せる順序を決める
・どのような順番に載せれば、読む相手の説得力があるかを考える ・キャッチコピーを考える (例) 数字での主張、諸感覚での主張、色で主張 擬音語の活用、擬人化など
文章と図や表、写真とのバランスを考える
・文章に合わせて入れたい図や表、写真などを決める ・優先順位や分量等に配慮してレイアウトを考える ・パンフレットの形式を考える (1枚裏表印刷、観音開き、8ページの冊子など)
レイアウトに従って文章や図表を貼り付けまとめる
・見出しは大きく目立たせる ・文章は短い文で分かりやすく、少なく ・図や写真、文章の量を考えて書く (基本的には文章30%、図、表、写真70%が目安)
身の回りのパンフレットを参考にして、よい点をまねてみましょう!

【ポイント】

主張点の明確化

- ・整理・分析した資料から自分の考えを明確にし、伝えたい内容などをカードや付箋などを活用して明らかにする。

対象や目的の明確化

- ・「観光客に町のよさをPRする」「地域住民に働きかける」など対象や目的を明確にし、それに応じた内容や表現を工夫する。

表現の工夫

- ・相手意識を大切にし、複雑にならないよう、最も伝えたい言葉や画像を精選し、色使いや見出しなどを工夫する。

教科等関連

- ・国語科における、目的や意図に応じて簡単に書くこととの関連。

事例 ポスターでまとめ・表現する

調査した内容や自分の思いを相手に表現する力を伸ばすには、ポスターセッションが考えられます。ポスターでまとめるときには、主張点や構成等を工夫させることが大切です。

【実践例 ポスターによるまとめ】

ポスターセッションを開くために、次のような手順で調べたことを模造紙にまとめる。

1 主張点を明確にする

- 何を伝えたいのか
- 誰に伝えたいのか

2 構成を考える

- 内容を焦点化する
- 見出しを決める
- 内容にあった小見出しを付ける
- 紙面のレイアウトを決める

3 表現を工夫する

- 見出し、タイトル
- ・相手の心に訴える言葉
- 説明の文章
- ・簡潔で分かりやすい文章
- グラフ、表
- ・分かりやすい種類や大きさ
- ・読み取るポイントを目立たせる工夫
- 文字の大きさ
- ・少しはなれていても読みやすい大きさ
- ・美しい文字で誤字脱字に気を付ける
- 色づかい
- ・強調する部分に目立つ色を使う
- ・色はたくさん使すぎないように配慮する
- 写真、イラスト
- ・多すぎないように配慮する

【ポイント】

主張点の明確化

- ・整理・分析した資料から自分の考えを明確にし、伝えたい内容や対象などを明らかにする。調べたことを丸写しにしたまとめにならないよう注意する。

構成の工夫

- ・掲載する内容を精選し、それぞれの内容に適した小見出しや情報量などを工夫する。

表現の工夫

- ・相手意識を大切にし、複雑にならないよう最も伝えたい言葉や画像を精選し、色使い、見出しなどを工夫する。

教科等関連

- ・図画工作科における、伝え合いたいことを表す活動との関連。

事例 パネルディスカッションでまとめ・表現する

聞き手が新たな知識を獲得したり、思考を深めたりするためには、聞き手の前で発信者が決められたテーマについて異なる立場で議論する「パネルディスカッション」などの方法を活用することが考えられます。

【実践例 パネルディスカッションの進行方法】

- 1 共通の課題の確認 (司会者)
 - ・どんな課題で追究してきたのか
- 2 各パネラーによる提案 (パネラー)
 - ・できるだけ異なる視点や立場で
 - ・具体的な資料を提示しながら
- 3 聴衆の質問、意見 (聴衆)
 - ・よく分からなかったことや疑問点への質問
 - ・提案に対する自分の考えの発表
(例)「～と思うのですが、どう思いますか」
 - ・反対意見や情報の提供など
- 4 パネラーの意見 (パネラー)
 - ・聴衆の質問や意見について自分の考えを分かりやすく話す
(＊3・4を繰り返し、意見を深めていく)
- 5 司会者のまとめ (司会者)
 - ・話合いから生まれた新しい考え方や意見をまとめる
 - ・質問や意見から新たな課題をもつ
- 6 最後に各パネラーが言い残したことやまとめたこと、意見を発表する

【ポイント】

協調的な発言

- ・互いの意見のよいところを吸収して最も優れた解決策を考えるように会を運営する。

根拠のある発言

- ・事実の裏付けのある意見を発表するために、事前に話す内容を想定し、根拠になる事実データを収集する。

簡潔で分かりやすい発言

- ・発言できる時間が限られているので、自分が最も伝えたいことを端的に発言する。

教科等関連

- ・国語科における、話し手の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめることとの関連。

事例 シンポジウムでまとめ・表現する

聞き手が新たな知識を獲得したり、思考を深めたりするためには、聞き手の前で発信者が決められたテーマについて提案し、その後、聴衆(参加者)が質問や意見を出し合い新しい考え方を発見する「シンポジウム」などの方法を活用することが効果的です。

【実践例 シンポジウムの進行方法】

- 1 司会がテーマについて説明する (約1分)
- 2 各パネラーが自分の意見を発表する (約1～3分)
- 3 司会が対立している点をまとめ、それについてパネラー同士が議論する (約10分)
(＊反対意見に対しては建設的な意見で反論する)
- 4 議論が一段落したら、司会は会場から質問を受ける (約5分)
(＊質問に回答するパネラーを決める)
- 5 最後に各パネラーが言い残したことやまとめたことの意味を発表する (約1分ずつ)



【ポイント】

全員の積極的な参加

- ・司会者は、疑問を投げかけるなど発言が活発になるようにする。パネラーは、参加者全員で考えていきたい内容を提案する。

- ・聴衆は聞くだけに終わらず積極的に質問や意見を言う。

簡潔で分かりやすい発言

- ・発言できる時間が限られているので、自分が最も伝えたいことを端的に発言する。

教科等関連

- ・国語科における、話し手の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめることとの関連。

[コラム] 言語活動の充実をめざすために・・・

学習活動において、国語科との関連を意識して実践していくと、言語活動がより充実していきます。

事例 総合的な学習の時間における体験活動を生かす

【実践例 国語科の作文に生かす場合】

国語科 書くこととの関連

総合的な学習の時間の中で取り組んだ生き物調査の内容を地域の方々にフォーラムで伝えるために、全体を見通したり事柄を整理したりしてまとめることができます。

<総合的な学習の時間>

生き物調査の情報を整理する。



フォーラムで伝えたいことを考える。



伝えたいことを基に集まった情報を整理する。



<国語科>

「はじめ」「中」「終わり」で文章の構成を考える。



作文にまとめ、校正する。



フォーラムの準備

【ポイント】

国語科（第5学年及び第6学年）

「B書くこと」の指導事項

- ・考えたことなどから書くことを決め、目的や意図に応じて、書く事柄を収集し、全体を見通して事柄を整理すること。

総合的な学習の時間の体験活動などを国語科での学習活動の教材として考えることもできる。

事例 国語科で身に付けた話す力を発揮する

【実践例 総合的な学習の時間の発表に生かす】

それまでに学習した国語科の指導事項や学習活動での成果を活用する。

<総合的な学習の時間>

第4学年の単元

「私たちの暮らしと水の働き」

発表のめあて

- ・調べたいことや理由などを、分かりやすく説明する

主な学習活動

各グループが全体に対し調査の報告をする
報告を聞いた人は自分の意見や感想を発表する
学級全体の意見をまとめる

【ポイント】

国語の指導事項を生かす

国語〔第3学年及び第4学年〕

「話すこと・聞くこと」の指導事項

- ・相手や目的に応じて、理由や事例などを挙げながら筋道を立て、丁寧な言葉を用いるなど適切な言葉遣いで話す。
- ・相手を見たり、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意したりして話す。

総合的な学習の時間の発表などにおいて、国語科で身に付けた話す力を発揮する場面と考えることができる。

総合的な学習の時間において探究的に学ぶ子どもの姿

総合的な学習の時間を探究的な学習とするためには、「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」の学習過程が繰り返され、スパイラルに高まっていくことが重要である。しかし、この学習過程はいつも順序よく繰り返されるわけではなく、前後したり、一体化したりして現れる。P 20 ~ 45 で示したそれぞれの学習活動は、児童が真剣に課題を解決しようとする中に生まれるものであり、例えば下図のような一連の学習活動のつながりを大切にしたい。個別の学習活動を羅列すればよいというわけではないことに十分配慮したい。



